

# ふるさと奥尻通信

平成31年2月28日  
奥尻町教育委員会発行  
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

## 巻頭言

北海道の存在する文化財のうち、文化財保護法の規定により指定されている物以外に、道にとって重要な物件が指定され、道民の文化向上、我が国の文化の進歩に貢献することを目的とする。

## 特集 奥尻町の文化財 —北海道指定文化財編—

・**新羅之記録**(有形・美術工芸) 奥尻町字赤石 松前家所蔵  
初期の松前家の事績を記録する古文書で、寛永20年(1643年)に編纂された松前家系図を6代藩主の弟、松前景廣がその不備を正し、記述を補って作成されました。北海道最古の歴史文書と言われています。上下2巻の巻物で、「家譜一・二」と記され、巻頭と巻末には源氏の氏神である新羅神堂の朱印が押されており、「新羅之記録」とされる由縁です。「松前国記録」、「新羅記」などの別名があります。(昭和45年2月12日指定)

・**青苗砂丘遺跡**(史跡) 奥尻町字青苗337-1ほか  
青苗砂丘の地下約2mに埋もれた6~7世紀頃のオホーツク文化の遺跡です。この文化は、サハリンやオホーツク海沿岸で栄えた文化で、舟で海上を移動したことにより遠い奥尻島まで到達したものと推測されます。土器や石器の他に、人骨(続縄文系)やクマ(道南系)の歯、本州産(島根県)の管玉や鉄製刀子などが発見され、列島の広範囲で交易が行われていたことを示しています。オホーツク文化の南進を裏付け、その南限とされています。(平成20年3月18日指定)



青苗砂丘遺跡の遠景(遺跡保護のため松を植えてある)

・**青苗遺跡出土品**(有形・考古) 海洋研修センター内展示  
昭和51・52年度に青苗遺跡から出土した擦文時代の骨角器と土器、121点です。道指定は「新羅之記録」、「青苗砂丘遺跡」に次いで島内3例目、考古遺物では初めてで、同部門では、檜山管内でも2例目のことです。

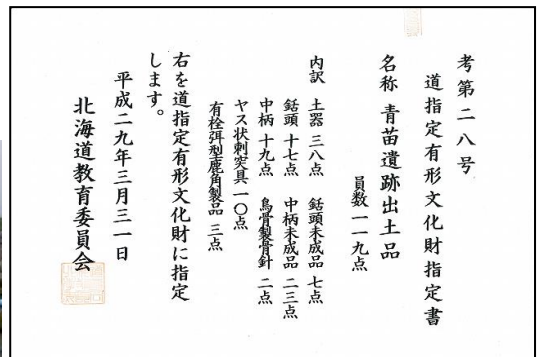
遺跡は奥尻島南端、青苗地区の海を見下ろす段丘上に位置し、縄文時代と擦文時代の文物が出土する複合遺跡となっています。海岸部へ続くゆるやかな斜面には、明治時代より擦文時代の貝塚が存在することが知られており、昭和初期のとある紀行文にも「鮑の貝塚」として登場しています。

貝塚出土品の内、約8割がアワビの殻で、他にニホンアシカや魚類の骨、ウニの殻などが見つっています。それらに混じって、獲物を捕獲するために使用した漁労具である、クジラやシカの骨で造られた精巧な骨角器が多数出土し、研究者の注目を浴びました。

北海道の擦文時代は本州の平安時代に相当し、貝塚の時期は付近から出土した土器の特徴から11~12世紀頃のものとして推定されています。全国的に見ると、この頃はすでに貝塚が遺されるような時代ではなく、青苗の事例は極めて稀です。そこから出土した骨角器の多くは、銚頭と呼ばれる離頭銚の先端部分で、一部に鉄製の矢じりが残るものや、鹿角製の基部に装飾が施されたもの等があり、島に出入りしていた擦文人の漁労生活の一端を解明する好資料と言えます。擦文人は、島の名産品となるアシカの毛皮や干しアワビを用いて、手広く交易を行っていたのかもしれませんが。(平成29年3月31日指定)



青苗遺跡出土の骨角器



有形文化財指定書 青苗遺跡出土品



青苗砂丘遺跡から出土した女性成人人骨



青苗遺跡出土の擦文土器(坏)



奥尻小グラウンドで開催された雪まつり会場で小学生がスキーをしています。町昭和41年の制施行記念で雪像を作った時のものと思われる。木製スキーと竹製のストックです。この頃の一般向けスキーは、長靴のつま先につっかけ、足首とかかとをバンドで止めたものです。このタイプのスキーは怪我しやすかったようで、痛い思いをした子もいたことでしょう。後方はハーモニカ長屋と呼ばれた一般向けの住宅です。



学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

発掘捏造 毎日新聞

日本考古学界の足元を崩す重大事件となった旧石器の遺跡捏造。「神の手」を持つといわれた民間考古学者が犯した愚行。その発見にお墨付きを与えた学者、過熱報道したマスコミが圧力となって彼の背中を押し続けた。21世紀に持ち越されることなく明るみとなったのが唯一の救いか。日本考古学の未熟さと業界の実情を明るみにした注目書。

奥尻のつり 下半期

30年秋冬(10月~12月)シーズンの景況は、磯釣り部門において、カジカ、ハチガラは好調、ソイ、アブラコは普通、カレイ、ホッケは不調でした。その他、ガヤ(エゾメバル)が春シーズンに引き続き例年よりも好調で、匹数、サイズとも例年を上回る勢いでした。ただ、ガヤが多い場所は他の魚が釣れにくくなる傾向にあり、ガヤのいる場所を敬遠する釣り師もいるとか。地元では、刺身でも煮付けでも美味な魚として重宝されています。人が欲しがるといふことですね。一方、島のイカ漁は例年通り不漁つづきで、年内も鳴かず飛ばず、1月のいわゆる「ボーナスイカ」はありませんでした。高級食材となってしまったイカ、こうなるとは陸からヤリイカを狙って竿を振るって自分で調達するしかないようです。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つげ1ヶ月 第34回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「鳥の子」第八号より

かかたらだか久た 三取でよも服  
 っ久。他。っ遠の兄人っもー行もも  
 た遠釣の五てさかが磯で良とか着う  
 。方場船時叫行走他舟来いいなな出  
 面にも四んくっのでるかういい発  
 の来一十だどて家行べらのので時  
 船た艘五。ー来にくと行ででい間  
 はら二分大とて聞こ思っ、俺るだ  
 あ盆艘だ分決ーきとって俺船。の  
 まだと。遅の鳥にてーはもーに  
 りと出俺い俺賊行し隣ば茶出何、  
 居言て船出につったのい津な家兄  
 なう来出発向けて。者でのいの達  
 の た に来 とも沖べ船は

ね計や込てがしち仕まの  
 。画らみ最出、込込で五奥二  
 と「が近て味んみろ月尻十  
 の限始、いわだ水過十ー九  
 こ定ま三たいまをし九の酒  
 と酒り十よにま、て日お造  
 。ー、酒うもの奥使で披年  
 楽を今造で若状尻用し露度  
 し出年年す干態島した目の  
 み荷は度。のでかて。は地  
 ですどのそ違使らいこ昨酒  
 するう仕しい用持たれ年

地酒のお味に変化?



書の道は険しい...

し館たせたし自校し下のさ会  
 た者エン。たののま、佐れ主ター  
 。のの夕作作筆授し十藤ま催一月  
 注あ!品品を業た一昌しのに十二  
 目るにはを使で。名子た書て二日  
 が大掲二仕いは児のさ。初、日  
 集き示十上、扱童小ん奥め奥、  
 まなさ五げ伸わは学の尻大尻海  
 つ作れ日てびな普生指地会町洋  
 て品、まい伸い段が導区が文研  
 いに見でまび大の参の在開化修  
 ま来ご同しとき学加の参在開化修  
 協

新春 書初め大会

に大ねよ猪鼻りのみ繁さル  
 謁寒、突を切か過華に?新年  
 見波北と猛くつ。ぎ街寝(新年  
 しが海い進じて今たで正を早々  
 ま到道うのかい年の美月引きに  
 し来地こ性れたはが味で、風邪  
 たし方と格たの年いしし、(編  
 てにでも格で男けいた。集後  
 、はし自好すななお。記)  
 冬久よ重でがのか酒年日イン  
 将々うせす、でつを末はイン  
 軍にか。出張た飲にま

少た会いわ旬謝か増見ンがエ  
 ながまれに絶らええフ、ン今  
 いし延するは措はて始ル島ザ年  
 のい期。な学置、いめエ内のは  
 がこさそど級が入き、ンで流全  
 唯のれの猛、と院ま日ザも行国  
 一項、た威学ら患しを流年が  
 のでなめを校れ者た。追行明見  
 救すんスふ閉、へ。うのけら  
 い。だきる鎖二の一ご兆よれ  
 か雪か!つが月面月としりま  
 が慌大て行初会末にがイす

インフルエンザ大流行



第五ひやま 竣工記念絵葉書 昭和62年